

どんびま

2010年12月20日発行
発行者 椈の湖農業小学校

お礼のことば

今年の漢字一文字は「暑」だそうです。今年の夏は本当に暑かったので、農作物は大きな影響を受けました。農家の経営にも大きな打撃を与えました。

農小での様々な出会いと出会い、体験、感動、喜び、楽しみなど皆さんの文集で読ませていただきました。卒業式では加藤くん小河くんと小河くんのお母さんの有難い言葉をいただき、思いを熱くしています。

第18期の再会を楽しみにしています。

一年間、ありがとうございました。

(校長 安保洋勝)



課外授業のご案内

☆ 12月26日(日)

わら細工 注連縄づくり

☆ 1月9日(日)

凧(連凧)づくり 凧揚げ
左義長参加

☆ 2月20日(日)

絞り染
からすみ(米粉の蒸し菓子)作り

☆ 場所 下野いきいき会館 中津川市下野 1423-7 (下野庚申堂前)

☆ 時間 午前9時~午後3時まで

※ 参加申し込みは スタッフ小林銷男 (Tel & Fax 0573-72-4835) まで
材料準備のため1月・2月は一週間前までに連絡ください。

～とくちゃんの農小レポート～

「おめでとう！第17期卒業式」

今期も全員無事に卒業式を迎えました。天気の良い日も、遠方の地域からも、欠かさず出席してくれた生徒(親)さんが、今年は例年になく大勢だったようで、先生・スタッフ共々大変嬉しく思います。

- 1 午前の授業。 野菜の収穫は、牛蒡、蕪、大根、里芋、葱でした。例年の如く牛蒡堀りは卒業試験と云われており、親子で協力(共力)しながらの悪戦苦闘でしたが、立派な牛蒡が沢山収穫できました。
- 2 収穫祭(昼食)。 ごへいもち、いもち、味噌おでん、唐揚げ、サラダ、餅、漬物、ぜんざい、こくしよ、甘酒。たっぷり2時間の昼食時間を取り、盛り沢山の郷土食等を味わいました。今年も荒城農小のスタッフの方が、五平もち焼きに協力して下さいました。(しかも炭持参で)感謝!感謝!
- 3 作品展。 沢山の農小活動の写真と物作りでの作品、そして課外授業での作品などがギャラリーに、加藤さえ子先生のレイアウトで飾り付けられました。
- 4 卒業式。 午後からは第17期の卒業式が行われました。

* 校長先生の挨拶。過去に無い程多くの皆勤者に驚くと共に、一年間何事も無く無事に過ごせた事への感謝の気持ちが述べられました。

* 卒業証書授与。 椀の湖農小伝統の木製の証書が、校長並びに各グループの先生から夫々に手渡されました。農小で採れた白米7合(1.26㍀)と文集、それに荒城農小からのプレゼントのりんごが渡されました。

* 各種表彰。(いずれも文集の中に結果が出ています。)

◎皆勤賞。今年はいくつかの生徒が対象となり、校長よりお餅が贈られました

◎バケツ稲コンクール表彰。上位には大株が、入賞には小株のシクラメンが農場長より贈られ、選択に迷っている生徒もいました。

◎案山子コンクール表彰。いずれも力作揃いでしたが、人気投票上位と特別賞参加賞に白かぶ、青梗菜が小林スタッフから贈られました。

* 来賓挨拶。 荒城農小の清水さんより、農小の良いところを強調して戴き、今後の活動に期待をこめたメッセージを贈って下さいました。

中津川市市長代理の磯川農政部長さんは、時間の都合によりお昼前にお話しがあり、椀の湖農小は生徒さんの将来にとって、きっと役立つ体験で有り良い思い出になる事でしょうから、今後も継続されるようにと励ましのお言葉を戴きました。

* 各代表挨拶。

◎ 先生代表の原美代子先生より、一年間の通学の労をねぎらわれ、佐々木千里先生の手作りわら馬のプレゼントがありました。

◎ 生徒代表は、5G小河、4G加藤の両君が、卒業までの体験や思い出話を披露し、とても楽しかったと話してくれました。

◎ 保護者代表は5Gの小河さんが、永年にわたる通学の感想と、農小の有るべき姿について触れられ、関係者としてはとても感動的でした。

* 校旗降納。 6年と5年の生徒で、一年間無事に学習出来た事に感謝を込め、校旗を納めました。

* 校長先生より、来期の参加に期待を込めた呼びかけがあり、第17期の卒業式を終えました。

- 5 子供市場について。例年開催の子供市場は、自分たちで作った野菜などを買ってもらおうと云う商体験として取り組んでいます。今年は特に販売担当の希望者が沢山でした。売上にご協力頂いた保護者の皆さん有難うございました。
売上金は農小の活動費に使わせていただきます。
- 6 持ち帰り。大根、牛蒡、蕪、里芋、葱。特に牛蒡は姿・形は良く有りませんが味が良くて好評です。有機栽培が最も顕著に表れている野菜と言えます。
- 7 作品展 短時間の開催ながら好評でした。出展された写真は希望者にプレゼントで、殆んどが引き取られていきました。出展された作品はそれぞれ持ち帰り頂きましたが、来年は一層多くの出展を期待しています。

～とくちゃんのちょっと一言～

第17期の卒業本当におめでとう！

この学校は1年（9か月）で卒業と云う珍しい学校で、しかも1～6年まで一緒に卒業出来るという、変わったシステムの学校でもあります。このような学校生活の中では、他にあまり例のない体験が多く含まれています。きっと楽しい思い出が沢山出来た事と思います。

さて例年の事ながら、12～1月の休校期には、課外授業に取り組みます。

課外授業予定（都合により変更あるかもしれません）

12月26日(日)は 藁細工で注連縄（しめ縄）づくり。

1月9日(日)は 凧（連凧）作りと左義長（どんどやき）体験。

2月20日(日)は 絞り染めとからすみ（菓子）づくり。

参加申し込み Tel & Fax 0573-72-4835 スタッフ小林まで

～あほ兄の百姓ぼなし～

「TPPはNO！！」

「人道支援」の実態が戦争の後方支援であったり、「障害者自立支援」が障害者の支援の切り捨てであったり負担金の増額であったりするように、政治には名目と実態とがかけ離れたものが少なくない。

政府が参加検討を表明した「TPP環太平洋経済連携協定」は日本の農業を崩壊させかねない危険をはらんでいる。交渉参加国に日本を加えた10ヶ国の内需全体の95%を日米両国がしめていて、京都大学の中野剛志助教によると「中国、韓国の参加しないTPPは アジア太平洋地域の貿易の基本ルールにならないばかりか、日本の輸出先になり得るのは米国だけで、その米国がドル安に誘導すれば日本の輸出競争力は相殺されてしまう。」という。事実上は日米の自由貿易協定（FTA）であって、輸出倍増を目指している米国は、農業だけをとりとめても、農産品だけでなく食品安全や農業共済などを貿易障害と指摘しているという。日米友好の言葉の裏には大きな落とし穴が隠れているように思える。

TPPは入り口で関税撤廃を宣言しないと加盟できない。安価な農産物が流入してくれば日本の農業の基盤そのものが崩れてしまうと言われている。林産物の自由化以降、木材関税を引き下げた結果の山林・林業の二の舞になることは目に見えている。

～かなちゃんの虫日記～

🐞 なんとか 冬 を こそろ 🐞🐞🐞🐞

どんどん さむくなりますね。わたしはさいきんはくつしたを2そくかきねてはいていますよ。なにもきていない虫たちは、ふぶきに冬をこせるのかしんはいいになります。でもきつたたいじょうふぐ！虫たちはじぶんにつらつらのせり方をしていますから。


その1 1本の中をかえる。

さあさに強い中身に 変身します。(みためは^{あまり}かありません)

- きんにく を しほう にかえる (うごくつよほうがいいし、(ほう)の方があたたかい)。
- たべなくても生きつづけられる体にする (エサとなる植物や虫がいなくなるとつつかれてしまう)。

なんだかぐうたらですね。でもこれがとても重要なのです。

その2 土の中にもぐる。

11月にごぼうをほりましたよね。そのときに土の中に虫をみかけませんでしたか？土の中は、風 がふかないし、地球のまんなかのあついところ  からのねつがじわじわきているし、お昼の太陽の光のあたたかさをたくわえているから、さむくなくてすごしやすいのです。

その3 おちばのうら、木のかちのうら、石のうらでじっとする。

エサをたべなくても生きられる体になっているので、すきまにかくれてじっとしています。木の前からたまごでじっとしている虫もいます。

まあまあ！みんなはじっとしてなくていいよ。たくさんきてあったかくして、外にいこうよ。どんな虫がどこにいてどうしてるのかさかしにいってみよう！！